

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2276700214
法人名	有限会社アートプロジェクト
事業所名	グループホーム 磐田かつらぎの家
所在地 (電話番号)	〒438-0016 静岡県磐田市岩井2070-9 Tel 0538-37-1008 FAX 0538-37-1009
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年10月2日

【情報提供票より】(平成19年 9月 30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 15 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	18 人 常勤 16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋 造り	
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(平成19年 9月 30日現在)

利用者人数	27 名	男性	12 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	6 名	要介護4	7 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.2 歳	最低	65 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	いわせ医院、わだ歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

磐田バイパスの岩井インターチェンジに近い閑静な新興住宅地にあり、近くのアパートには外国人も多く住んでいる。ホームは3ユニットあり、27名の利用者に対し18名の職員が日々のケアに取り組んでいる。ホームの理念を「ゆったりとした介護と環境、楽しく過ごす第2の家」と定め、管理者・職員ともどもケアの質の向上に情熱を持って当っている。ホーム内は清潔で適度な採光と室温に保たれ、共用空間は調度、設備、装飾等家庭的な雰囲気が醸し出されているほか、利用者居室には本人が使い慣れた品々が持ち込まれ、各々の生活習慣に合わせた暮らしが支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価において14項目の改善課題があり、管理者・職員全員が話し合いにより、ほとんどが改善されており、未改善の2件については現在改善に向け取り組み中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票の作成に当たり、管理者・職員全員で取り組み、新たな課題を見つけケアサービスの質の向上に活かしている。 3ユニット夫々の特徴を加味した自己評価票が作成され、改善に活かされていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、構成メンバーの日程の都合や家族代表が決定できなかったことにより、開設以降1回のみ開催となっており、取り組みが十分でない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月初めに、利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等を家族に細部にわたり報告している。また、面会時にも家族等から意見・要望などを聞きだして運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の各お祭りに参加したり、文化展には利用者の作品を出品する等、地元の人々との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「ゆったりとした介護と環境 楽しく過ごす第2の家」が定められているが、今までの理念に加えて、地域密着型サービスとしての役割を目標とした内容となっていない。	○	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、法改正が行われていることから、「家庭的な環境と地域住民との交流」を事業所独自の理念としてつくりあげられることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	立場や経験に関わらず、非常勤職員も含め事業所の理念の中身を知っており、職員一人ひとりの言葉かけにも理念の共有化が見られた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の各種のお祭(盆祭り、秋祭り等)に参加したり、文化展に利用者の作品を出品する等、地元の人々との交流が盛んになることに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価における問題点を、管理者・職員全員が改善に向けての検討を行い、具体的改善に取り組んでいる。自己評価票は、3ユニット夫々の特徴を踏まえた内容になっており、ユニットに相応した改善への取組が見られる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は構成メンバーの日程の都合や家族代表が決定できなかったことにより、開設以降1回のみ開催となっており、取り組みが十分でない。	○	参加メンバーに対して運営推進会議の意義や役割り等を十分に理解してもらえよう、積極的に根気よく働きかけることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	磐田市の事業者連絡会に参加しているほか、月に3～4回市役所の関係窓口に行き、関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月初めに、家族等に対して利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等の報告を郵送しているほか、家族の面会時においても状況報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見を取り入れ、サービスの改善に取り組んでいる。(例:整髪は業者でなく職員が行うなど。)		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限(各ユニット1名)に抑えるように努力し、運営に影響が出ないように取り運んでいるが、離職率は高い。	○	利用者が落ち着いた生活を営むためには、職員との馴染みの関係が大切である。介護を取り巻く環境は厳しいものがあるが、職員の定着を図るために、本社と一丸となった新たな取組が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を主に実施し、外部研修への参加は職員個人の自発的行為に任せ、自己啓発レポートを提出させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の管理者による交流会はあるが、職員同士や同業者との交流・勉強会は実施していない。	○	同業者との交流を強化することは、職場内では行き詰っている日頃の仕事の悩みの解消や、緊急時の連携をスムーズにするなど、事業所や地域全体としてのサービスの質の向上につながるため、実行されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が環境に慣れるよう体験入所させたり、本人主体のカンファレンスをしながら、徐々に本人の負担とならないように家族と相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である利用者から、昔話、苦労話、楽しい話を聞いたりしている中から先人の知恵を授かるなど、身近に信頼し合える関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアや関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや希望を汲み取るように努め、無理強いせずに本人本位の支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月定期的に行われるミーティングにおいて、利用者一人ひとりの課題とケアのあり方について話し合いが行われ、利用者本人の希望、家族の意見、主治医の指導等を反映した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度定期的に見直しをしているほか、状況変化に応じて随時のモニタリング、カンファレンスを行い、医療機関や本人、家族とも話し合い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、事業所の出来る範囲で通院や買い物等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等との話し合いにより、それまでのかかりつけ医との関係を築きながら、協力医療機関の医師の往診を受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの実績はないが、重度化や終末期対応の話し合いは行われている。しかし、ホームとしての基本方針が職員全員に行き渡るまでに至っていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームあるいは法人としての基本指針を確立し、全職員で終末期対応を共有されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや対応は、本人の言うことをできるだけ否定しないなど、利用者一人ひとりの状況に合わせてさりげなく行われている。また、個人情報記録は事務所に保管し、プライバシー確保の徹底を期している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりが出来ること出来ないことを承知しており、利用者本人に合わせ一部介助や食事の片付け等の手伝いをしてもらったりして、本人中心の暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事作りや片付けを行ったり、行事には特別メニューを作るなどの支援をしているが、職員は利用者とは別に食事をしている。	○	職員も利用者と一緒に食事することを思考中のようであるが、食事をしながらの団欒は、利用者との意思疎通に大いに役立つことであり、一緒に同じ食事が食べられる状況の検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は各ユニットごとに異なっているが、本人の希望を尊重し、気の合った者同士の入浴があったりする等、くつろいだ入浴支援がされている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした洗たく物のたたみ、食材の仕分け、テーブル拭き、カレンダーの日めくりの係り、カーテンを開ける係り、ぬり絵、編み物、菜園の管理等、楽しみごとややる気を引き出す支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気分、希望に応じて心身の活性につながるよう散歩、買い物、菜園の手入れ、お墓参り等、の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、場所に認知ができない利用者もかなりいるが、日中玄関は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回地震や火災に対する訓練を行っているが、地域との協力体制が取れていない。	○	周辺地域は、新興住宅やアパートが多く、住民は外国人もかなり住んでいる環境下にあるが、自治会・町内会との話し合いを視野に入れ、災害時に近隣住民の協力が得られることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調等による食事量の調整や、摂取状況を毎日介護記録に記入し、職員が情報を共有しているが、水分量の記録がないほか栄養バランスについての把握が十分でない。	○	栄養バランスやカロリーに対して、定期的に管理栄養士による専門的なアドバイスを受けることや、日々の水分摂取量の記録が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は適度な広さがあり、ダイニングルームの壁には行事の際の写真や利用者の作品等が飾られ、調度、設備、装飾も家族的で、心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の各居室は適度な広さがあり、洗面台とベツト、クローゼットの備え付け以外は、本人が使い慣れたテーブル、日用品、テレビ、愛用の洋服等が持ち込まれており、利用者各々の生活習慣に合わせた居室作りがされている。		